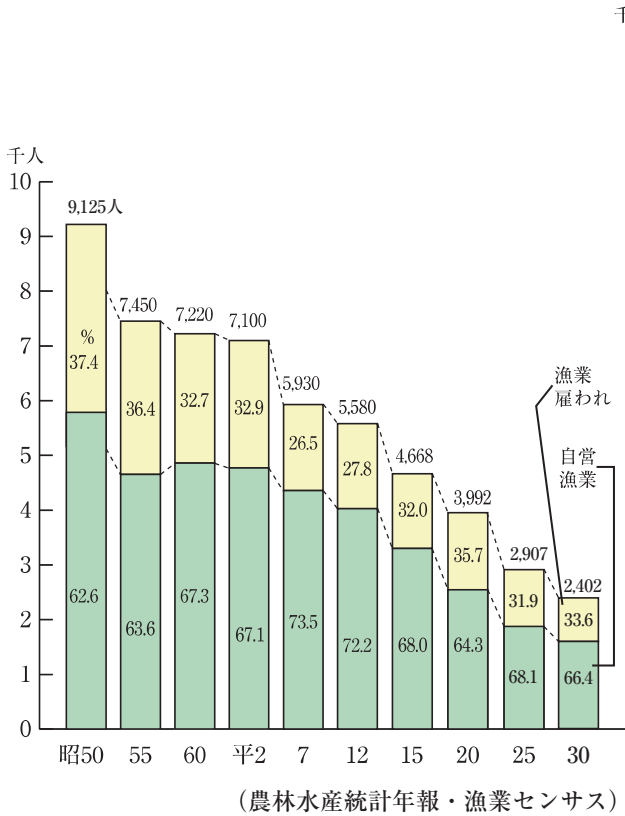


3 水産部門

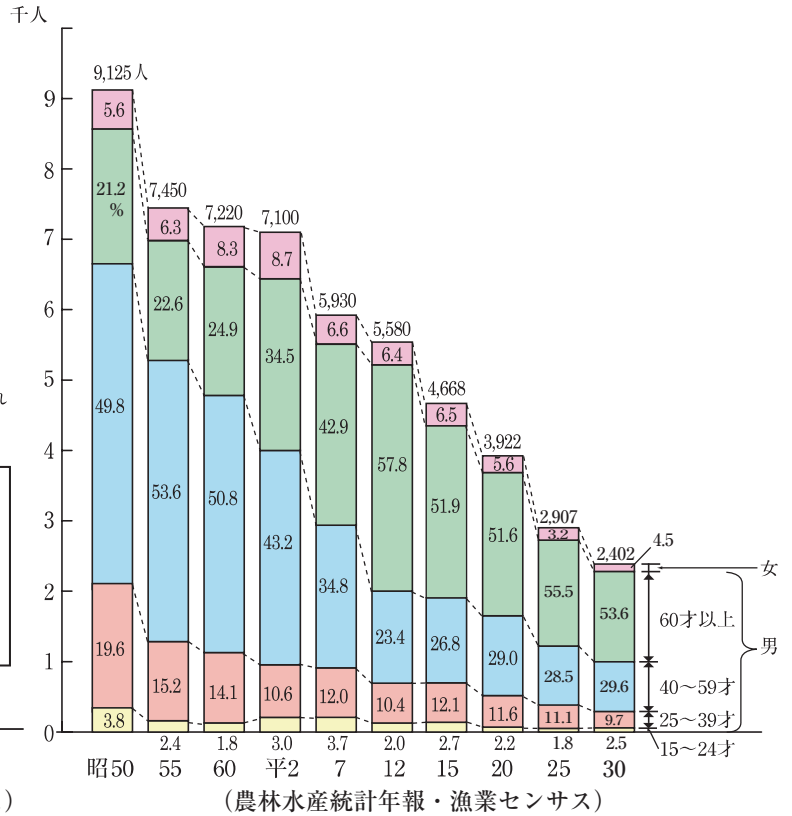
1) 水産業を担う人々

漁業就業者数は減少傾向で推移しており、平成30年は2,402人である。
 また、漁業就業者のうち年齢別では60才以上の男子就業者が53.6%を占め、高齢化が進んでいる。

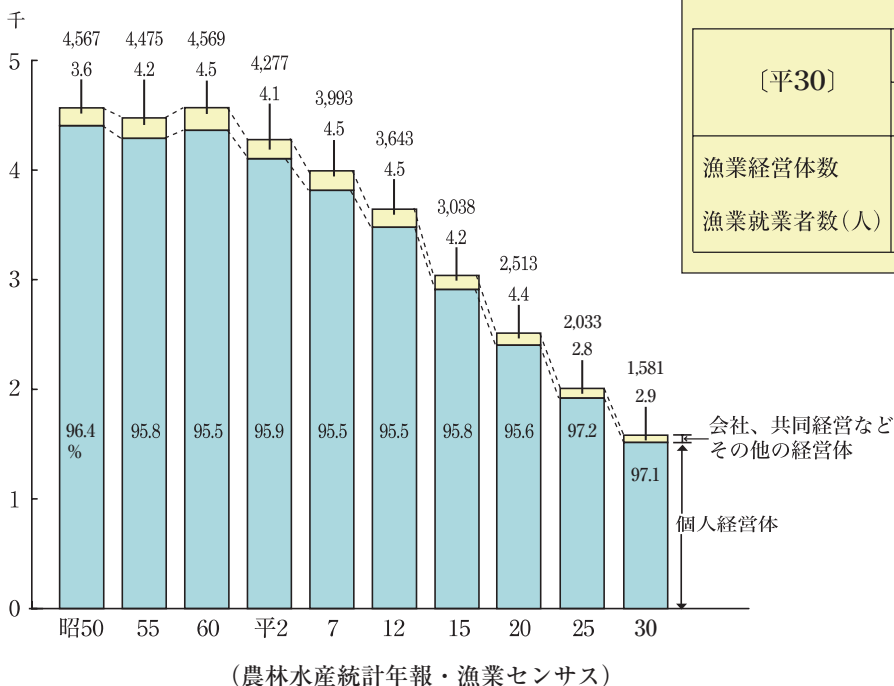
漁業就業者数の推移



年齢区分別漁業就業者数の推移



漁業経営体数の推移



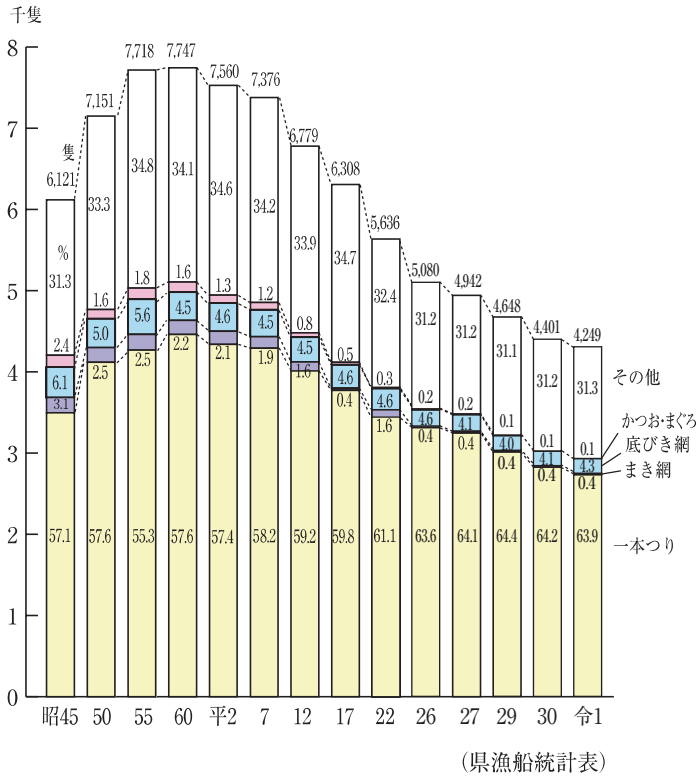
〔平30〕	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	実数	実数	順位	シェア (%)	県名	県名	県名
漁業経営体数	79,067	1,581	21	2.0	北海道	長崎	青森
漁業就業者数(人)	151,701	2,402	23	1.6	北海道	長崎	青森

(2018年漁業センサス)

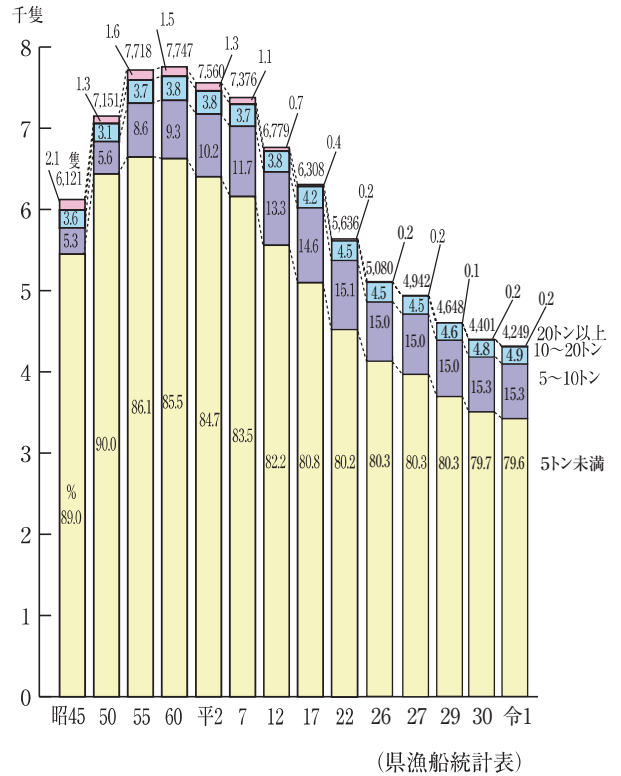
2) 水産業の基盤

海水動力漁船数は昭和60年をピークに減少傾向にあり、令和元年12月末日現在では4,249隻となっている。漁業種類別では「一本釣り」が63.9%、「底びき網」4.3%である。トン数別では5t未満の小型漁船が79.6%と大半を占めている。

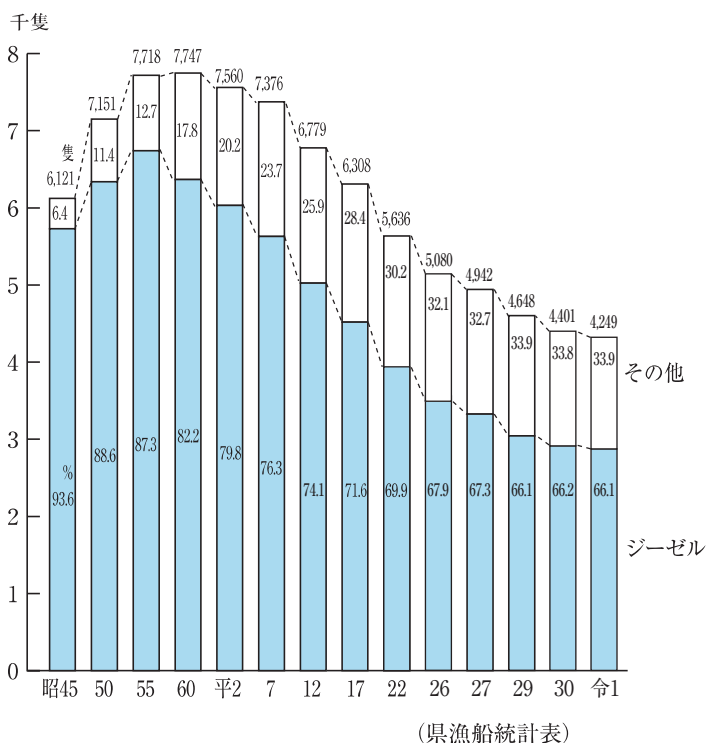
漁業種類別海水動力漁船数の推移



トン数階層別海水動力漁船数の推移



機関種類別海水動力漁船数の推移



漁港の現況

本県には、94港（全国2,806港）の漁港（平成31年4月1日現在）と、118地区（全国4,115地区）の漁港背後集落（平成29年度末時点）がある。また、漁港の種類は、その利用範囲によって下表のように分類されている。

種別	漁港合計	分類の説明
第1種漁港	77	利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第2種漁港	11	利用範囲が1種より広く3種に属さないもの
第3種漁港	4	利用範囲が全国的なもの
第4種漁港	2	漁船の避難上特に必要なもの
港合計	94	

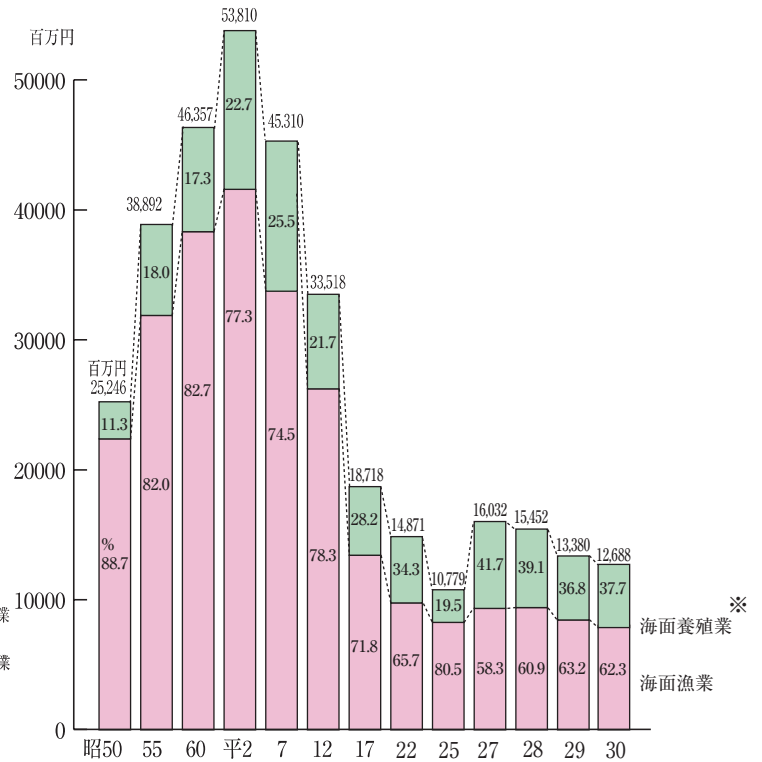
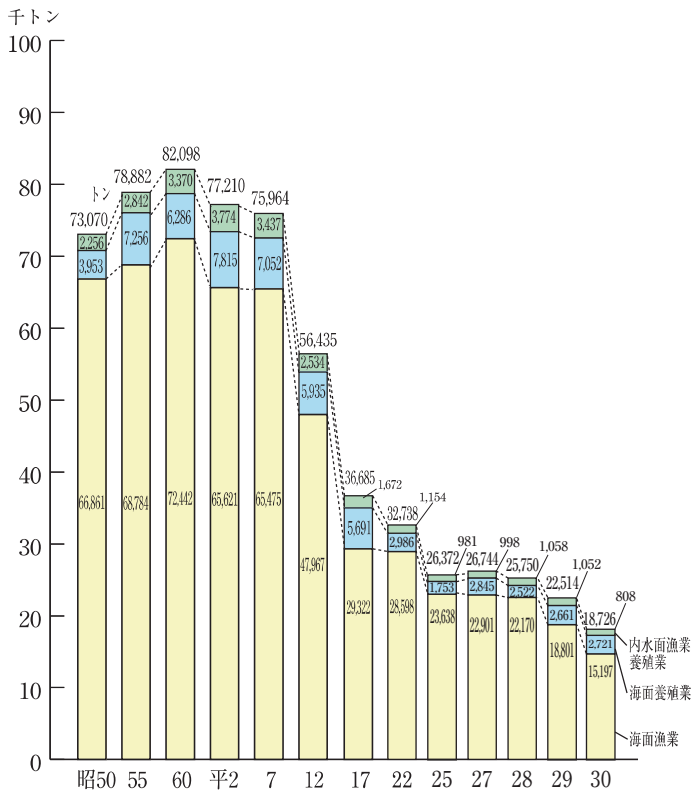
3) 水産業の生産

漁業・養殖業の生産量は昭和61年の88,108tをピークに減少傾向にあり、平成30年は18,726tとなっている。

海面漁業・養殖業産出額は平成2年をピークに減少傾向であり、平成30年は126億88百万円となっている。

漁業・養殖業部門別生産量の推移

海面漁業・養殖業産出額の推移



(漁業・養殖業生産統計)

(漁業・養殖業生産統計)

※海面養殖業産出額については、平成29年より種苗の産出額が計上されないこととなったため、平成28年以前と平成29年以降では連続しない。

生産量

[平30]	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(t)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	3,359,530	15,197	31	0.45	北海道	長崎	茨城
魚類	2,738,834	13,947	30	0.51	北海道	長崎	茨城
えび・かに・いか・たこ	158,504	489	36	0.31	北海道	青森	兵庫
貝類	350,388	58	36	0.02	北海道	愛知	千葉
海藻類	78,899	573	14	0.73	北海道	愛知	青森
海面養殖業	1,004,871	2,721	23	0.27	北海道	広島	青森

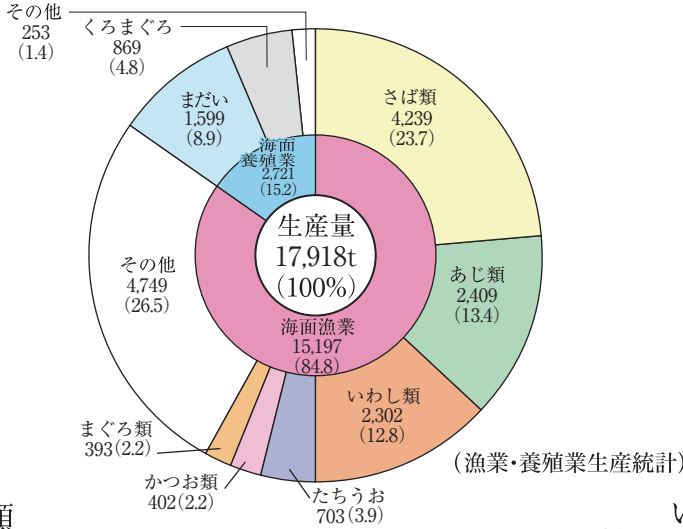
産出額

[平30]	全国	和歌山県		1位	2位	3位	
	(百万円)	実数	順位	シェア(%)	県名	県名	県名
海面漁業	937,726	7,909	28	0.84	北海道	長崎	宮城
海面養殖業	486,064	4,779	21	0.98	愛媛	鹿児島	北海道

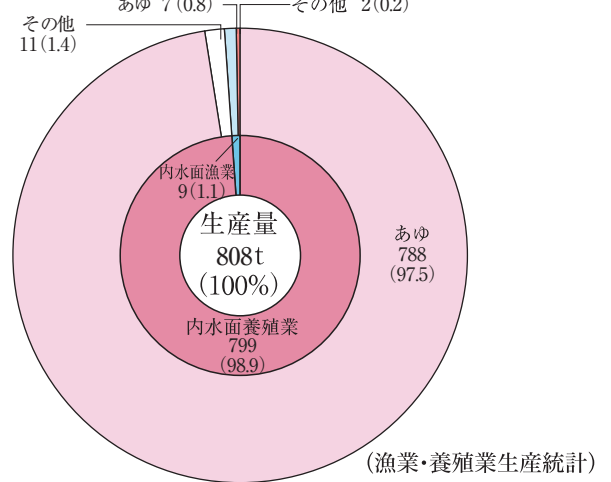
4) 主な魚種別漁獲量・産出額の推移

平成30年の魚種別の生産量は、海面漁業では、さば類27.9%、あじ類15.9%、いわし類15.1%、たちうお4.6%となっている。海面養殖業では、まだいが58.8%、くろまぐろが31.9%を占め、内水面養殖業では、あゆが98.6%となっている。

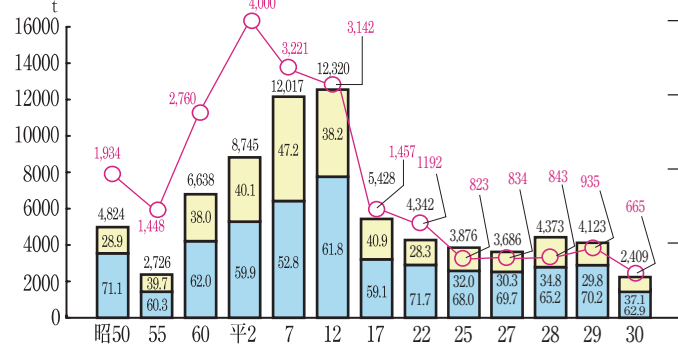
海面漁業、養殖業魚種別生産量（平30）



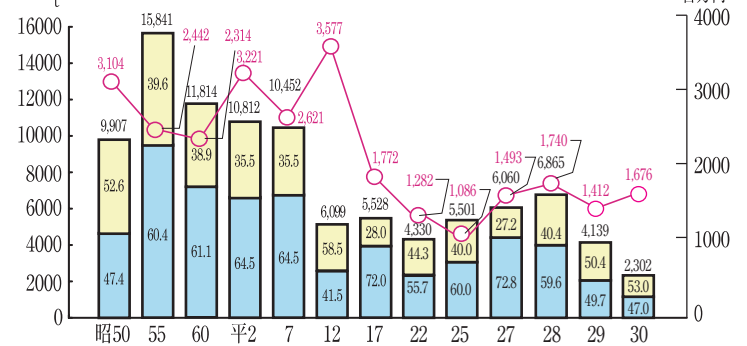
内水面漁業、養殖業魚種別生産量（平30）



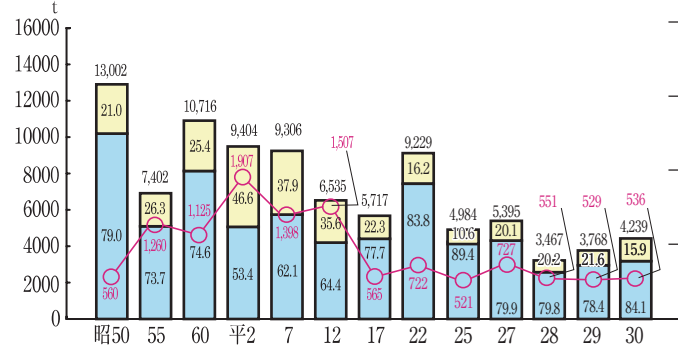
あじ類



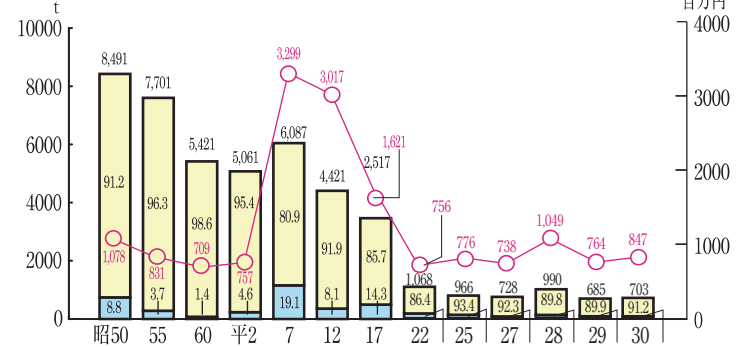
いわし類



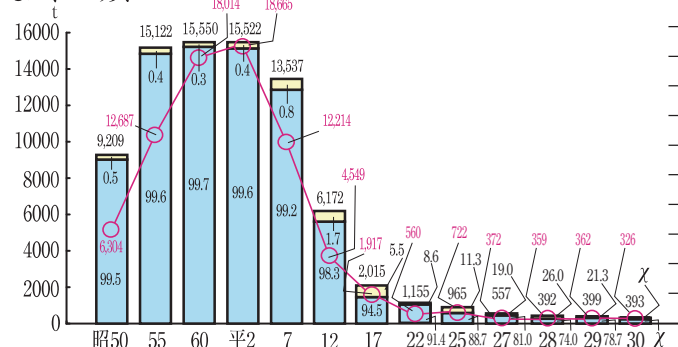
さば類



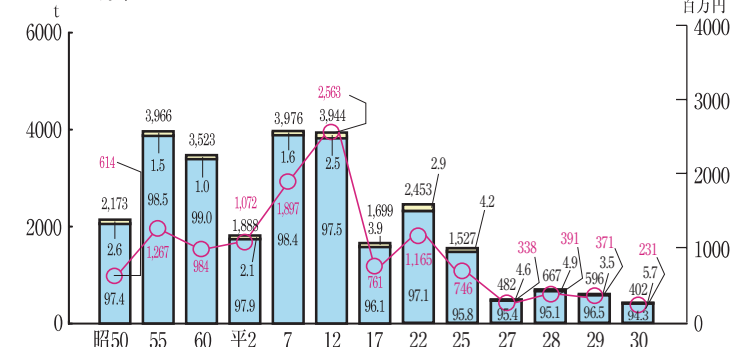
たちうお



まぐろ類



かつお類



漁獲量 瀬戸内海区 太平洋南区

産出額 (百万円)

※「x」は統計法に基づく秘密保護のため、公表されていないものです。

(漁業・養殖業生産統計)